

令和4年度第1回大田区SDGs推進会議 会議録

日 時	令和4年5月17日(火) 午後6時から午後7時30分まで	会 場	大田区役所 201・202 会議室
出席者	村木美貴 委員 高木超 委員 小林郁也 委員 野田康志 委員 磯収二 委員 高橋潤年 委員 諏訪貴子 委員 海老名伸哉 委員 齋藤浩一 委員 山田良司 委員 小泉貴一 委員		
傍聴者	5名		
次 第	1 開会挨拶 2 委嘱状交付 3 委員紹介・自己紹介 4 議事 (1) 会長・副会長選出 (2) 大田区の現状や課題 (3) 2030年に目指すべき姿 5 今後の会議の流れ		

○野村企画調整担当課長

それでは、定刻になりましたので、ただいまより令和 4 年度第 1 回大田区 SDGs 推進会議を開催いたします。

本日はお忙しい中お集まりいただき、ありがとうございました。私は、会長選出まで進行役を務めさせていただきます。企画調整担当課長の野村と申します。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

本日の会議は議事録作成のため、録音させていただきます。また、議事録は後日、区のホームページで公開する予定ですので、ご了承願います。では、会議の開催にあたりまして、副区長の川野よりご挨拶を申し上げます。川野副区長、よろしくお願いいたします。

○川野副区長

皆さんこんばんは。大田区副区長の川野でございます。皆様には大変お忙しい中、大田区 SDGs 推進会議にご出席賜りまして本当にありがとうございます。また、日頃より、大田区政に格別のご理解、ご協力を賜りまして、心より御礼申し上げます。

皆さんご存知の通り、この SDGs につきましては、2030 年までに達成すべき国際目標となっております。この国際社会共通の目標といたしまして、持続可能な世界を実現するための包括的な 17 のゴール、そして 169 のターゲットで構成されておりまして、国家レベルのみならず、多様な主体が一丸となって、協力、連携していかなければ達成することが困難な取組でございます。区民の皆様、また、事業者、企業者の皆様を含めて、地域の最も皆様に密着している大田区、また地域の歴史や文化、そして地域の経済活動など、実態に即して、行政がその役割を果たしていく、そういった責務を負っているというふうに考えているところでございます。そのような中で、大田区では SDGs を着実に推進し、地域の課題解決並びに持続的な発展を目指すために、この4月に大田区 SDGs 推進会議条例を施行いたしまして、本日の会議の開催に至ったところでございます。

SDGs の幅広い目標に対しまして、どう考え、どのように取り組んでいくのか。目標年次である 2030 年にあつという間になってしまうかもしれませんが、その 2030 年に向けまして、時間軸を設置して、どのように何を行っていくか。その内容は貧困に始まり、ジェンダーフリー、生態系、気象変動など多岐に渡る広い分野となっております。そしてそれが社会全体にどう関与していく

のか、また企業活動等にどう影響するのか。国の役割、また、自治体の役割、そして区民の皆様、事業者の皆様、それぞれがどう考えていくのか非常に悩ましいところがございます。この推進にあたりまして、大田区においては、専門的な組織は設けておりません。自治体によりましては、専門の組織を立ち上げてやっているところがございますが、大田区はあえて庁内が一丸となって取り組めるように、横串を刺していくイメージでトライをしていこうかなというふうに考えているところがございます。そして、大田区の特性及び地域課題を踏まえて、SDGs推進の 17 の目標に対しまして広く検討して参りますが、本日設置をさせていただきます会議におきましては、とりわけ環境と産業に絞り込ませていただきまして、集中的にご意見を頂戴できればと考えております。委員の皆様どうぞよろしくお願い申し上げます。

○野村企画調整担当課長

川野副区長ありがとうございました。続きまして、皆様に、大田区SDGs推進会議委員の委嘱を行わせていただきます。それでは川野副区長、よろしくお願い申し上げます。

○川野副区長

本来、お一人一人様に委嘱状をお渡しするところがございますが、大変恐縮でございますが、机上に委嘱状をご用意させていただいております。任期は、令和 6 年 3 月 31 日までとなっております。委員の皆様どうぞよろしくお願い申し上げます。

○野村企画調整担当課長

川野副区長ありがとうございました。大変恐縮ではございますが、副区長の川野は公務のため、ここで退席とさせていただきます。

それでは、本日は初めての大田区SDGs推進会議ですので、最初に委員の皆様にご自己紹介をお願いさせていただきます。今机上に配られております、この次第が記載されている資料を 1 枚おめくりいただきますと、委員名簿がございます。こちらの委員名簿順にマイクを回させていただきますので、順番にご自己紹介をよろしくお願いいたします。

なお、感染症対策のため、マイクは発言の都度、除菌をさせていただきます。ご発言後は、直接隣の委員に渡さずに、一度事務局職員までお戻しい

たきますよう、よろしくお願いいたします。それでは最初に、村木委員、よろしくお願ひいたします。

○村木委員

皆さんこんにちは。千葉大学の村木と申します。専門は都市計画です。都市計画の中でも土地利用計画、脱炭素都市づくりについての研究をしておりますので、かなりエネルギーのことに詳しくなってきました。どうぞよろしくお願ひいたします。

○高木委員

皆さんこんばんは。慶應義塾大学の高木超と申します。専門は行政学として、行政学の観点からSDGsをどのように自治体で推進していくかということについて研究をしております。国内の幾つかの自治体で、アドバイザー等をさせていただいておりますので、大田区のお役に立てるように一生懸命頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

○野村企画調整担当課長

名簿順ですので、次は小林委員、よろしくお願ひいたします。

○小林委員

日本経済研究所から参りました小林郁也と申します。日本経済研究所は、日本政策投資銀行のグループシンクタンクでございまして、主にサステナビリティ経営の企業コンサルや調査をやっております。直近2年ではDBJ、日本政策投資銀行にも出向してございまして、企業様の環境経営についてご評価させていただき、ご融資に紐づけることを行って参りましたので、環境と実際の事業者様の結び付きといったところで意見等々お力になればと思っております。よろしくお願ひいたします。

○野村企画調整担当課長

続きまして野田委員よろしくお願ひいたします。

○野田委員

皆さんこんばんは。東京きらぼしフィナンシャルグループサステナビリティ

推進室の野田と申します。どうぞよろしくお願いいいたします。弊社は、きらぼし銀行という地方銀行、こちらは東京都民銀行、八千代銀行、新銀行東京が合併して3年前にでき上がった銀行で、私はグループ内のサステナビリティ関連の統括部署で立場をとっております。今回、大田区様とこれまでの関係性の中からお声掛けいただきましたので、この会議で皆様と協力させていただきながら、大田区のために何か少しでも力が発揮できればと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいいたします。

○野村企画調整担当課長

続きまして、磯委員、よろしくお願いいいたします。

○磯委員

東京商工会議所大田支部情報・サービス分科会分科会長の磯でございます。今日はよろしくお願いいいたします。私は、青山にある国際連合大学でずっと省エネのお仕事をさせていただいていましたので、2015年にSDGsが始まったときも国際連合大学さんとはずっとお付き合いしていましたので、我々として一番身近なものは、いかに省エネするかということが仕事でございます。SDGsの17項目については一生懸命勉強しております。よろしくお願いいいたします。

○高橋委員

皆さんこんばんは。東京ガスネットワーク東京中支店で支店長を務めております高橋潤年と申します。よろしくお願いいいたします。東京ガスネットワークという名前に少し聞き慣れないところがあるかと思えますけれども、2022年4月、今年4月1日に都市ガスをお届けするガス導管事業会社ということで、東京ガスから分社化してございます。今後ともよろしくお願いいいたします。我々のミッションは、都市ガスとエネルギーを安定供給することや、保安をつかさどる会社であるとともに、地域課題の解決や発展に寄与するといった会社になってございます。そのような会社でございますので、SDGs実現に向けて、エネルギー供給を通してカーボンニュートラルな社会と、あとはレジリエンスの強化というようなところを両立させられるように、そういう形で持続可能な社会に寄与できるように尽力していきたいと思っております。よろしくお願いいいたします。

○野村企画調整担当課長

続きまして、諏訪委員よろしくお願ひいたします。

○諏訪委員

皆様こんにちは。ダイヤ精機株式会社の諏訪と申します。大田区生まれ大田区育ち、町工場育ちの本当に小さな町工場を 30 人程度ですが、大田区でやっております。一応、大企業でも日本郵便の社外取締役という役割をやっております。大企業はSDGsに対してかなり積極的に推進しようとして計画していますけれども、大田区はやはり中小企業、小規模企業がかなり多いです。なので、色々な視点からSDGsを進めていかなければいけないと痛感しておりますので、少しでもお役に立てるように頑張っていきたいと思ひます。

また、新しい資本主義実現会議の方にも出席をさせていただいております。今後の資本主義のあり方についてもSDGs、持続可能な社会に向けて検討中ですので、そういった情報等も含めて、大田区で何ができるかということをお願ひさせていただきます。どうぞよろしくお願ひいたします。

○野村企画調整担当課長

続きまして、海老名委員よろしくお願ひいたします。

○海老名委員

皆さんこんばんは。エビナ電化工業の海老名と申します。当社は表面処理のメッキをやっております。今で 76 年となります。私で今 3 代目となりますけれども、ご存知の通りメッキというのは 3K の典型でしたり、環境破壊型と言われて長かったですが、今回このような形で CO2 を排出する企業の代表としてここに呼ばれたかなということで、CO2 をどれだけこの会議の中で削減できるヒントをいただければということで、よろしくお願ひいたします。

○野村企画調整担当課長

続きまして齋藤委員よろしくお願ひいたします。

○齋藤委員

大田区の企画経営部長の齋藤と申します。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

ます。私は、区の計画それから予算決算等の全体調整を担当しております。またこのSDGsの担当所管部長ということになります。今、委員さんの方からお話がありましたが、色々な個性豊かな皆さん方というか、そういうことで大変楽しく思っております。忌憚のない意見を期待しておりますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

○野村企画調整担当課長

続きまして山田委員よろしくお願ひします。

○山田委員

皆さんこんばんは。産業経済部長の山田と申します。私も大田区生まれの育ちで、実家は町工場で継がなくて役所に入って今このポジションにと、何とも縁があるなと思っております。本日、この会議で取り扱う今後やっていく内容、産業経済部大変多岐に渡って連携する部局でございます。是非皆様方と、様々な角度からしっかりと議論させていただいて、この会議のより良い運営に努めて参りたいと考えてございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

○野村企画調整担当課長

続きまして、小泉委員よろしくお願ひいたします。

○小泉委員

皆さんこんばんは。環境清掃部長の小泉と申します。私は、環境清掃部で環境部門と清掃部門の二つの部門を所管しております。環境はもちろんですが、清掃部門においてもよくお聞きの3Rとリニューアブル、ごみの適正処理といった循環型社会の構築を目指しております。後程簡単にご説明をさせていただきますけれども、大田区環境アクションプランを3月に策定したところであり、部を挙げて環境施策に取り組んで参ります。よろしくお願ひします。

○野村企画調整担当課長

委員の皆様、ありがとうございました。

続きまして、お手元の資料を確認させていただきます。資料は計4点ございまして、まず1つ目が、表紙に次第が記載されております。令和4年度第1回大田区SDGs推進会議議事資料というホチキス止めされたものになります。

議事資料はすべてこの一連の中に収まっておりまして、残りは参考資料となりまして、参考資料 1 が、大田区SDGs推進会議条例、A4 の 1 枚になります。次参考資料 2 が大田区SDGs推進会議条例施行規則。こちらもA4 1枚となります。参考資料 3 が、大田区におけるSDGs推進のための基本方針。こちらホチキスとめされた 3 枚のペーパーとなっております。資料は以上になりますが、不足はございませんでしょうか。

それでは、議事の 1 つ目の、会長・副会長選出に進ませていただきます。大田区SDGs推進会議条例第5条では、推進会議に会長及び副会長を置き、委員の互選によりこれを定めるとしております。本会議の委員の皆様の中から会長及び副会長の選出をお願いいたします。

○磯委員

はい。

○野村企画調整担当課長

磯委員よろしく申し上げます。

○磯委員

はい。まちづくりを専門として大田区の様々な分野でご活躍をされております、学識経験者の村木委員を会長に推薦いたします。よろしく申し上げます。

○野村企画調整担当課長

ありがとうございます。今、会長に村木委員のご提案をいただきました。皆様、いかがでしょうか。それでは、会長を村木委員にお願いさせていただきます。続きまして、副会長ですが、いかがでしょうか。齋藤委員、よろしく申し上げます。

○齋藤委員

はい。大変僭越でございますが、私の方からご提案でございます。多数の自治体でSDGsのアドバイザーや会議体のご経験がある学識経験者の高木超先生を副会長に推薦いたします。いかがでしょうか。

○野村企画調整担当課長

拍手で異議はなしということでしたので、副会長につきましては、高木委員にお願いさせていただきます。

それでは、会長に村木委員、副会長に高木委員が選任されました。会長に選任されました村木委員、副会長に選任されました高木委員は、それぞれ会長席、副会長席へ移動をお願いいたします。

それでは自己紹介をしたばかりではございますが、改めて会長に選任されました村木会長と副会長の高木副会長から一言ずつご挨拶をいただきたいと思っております。まず、村木会長からよろしくをお願いいたします。

○村木会長

ありがとうございます。着座にて失礼いたします。挨拶ということで3点ほど申し上げたいと思っております。

まず1つ目ですが、各都市のSDGsの未来都市などで、計画を作られている行政体の計画を見ると、ただアイコン付けただけだと思われるところがたくさんあって、これでいいのかなというのを私自身はいつも思います。相対評価できるものというのがとても大事だと思っていて、つまり、できている計画というのが他都市と比べてどうなのか、自分たちの置かれているところがどういう状況なのかということの評価をする。これができるものを作っていく。つまり、これは数字で説明できるものを作ることが大事だと思っております。

2つ目に、先ほど川野さんがおっしゃっていた時間軸です。2030年ですけれども、目標年次からどのように考えていくのかということ、時間を考えながらいつまでに何をやらないと間に合わなくなるのかということを考えつつ、それに向けた取組をしていく。それが大事だと思っております。

3つ目ですが、このように私も、比較的はっきり物を申し上げて、大田区の中の仕事もたくさんさせていただいているので、ここにいらっしゃる区の職員の方々は、はっきり物を言うというのは皆さんご存知だと思いますが、あえてそういう私を持ってきたということで、皆さんとてもやる気がおありになるのだなというふうに認識しています。委員の方々も、はっきりおっしゃってくださって結構ですし、使える計画を作らないと意味がないと思っておりますので、そのあたりを一緒に行政と考えていくということで、是非どうぞよろしくお願いいたします。

○野村企画調整担当課長

村木会長ありがとうございました。では続きまして高木副会長よろしくお願

いたします。

○高木副会長

ありがとうございます。慶應大学の高木でございます。今、村木会長からお話がありましたとおり定量的な評価の実施、そして時間軸を意識した計画の策定、他の自治体にはない特徴を大田区でも作って、使える計画にしていかなければ意味がないと、まさに私もそう思います。ですので、私も微力ながら色々な自治体にお伺いして勉強させていただいている分、こちらで還元させていただければと思います。微力ながら、村木会長、そして皆様のご支援をさせていただいて、円滑な議事の進行に協力できればと思いますので、どうかよろしく願いいたします。

○野村企画調整担当課長

村木会長、高木副会長、ありがとうございました。それでは、以降の進行は村木会長にお願いさせていただきます。村木会長よろしく願いいたします。

○村木会長

ありがとうございます。それでは早速始めさせていただきたいと思います。議事2の大田区の現状や課題に進みたいと思います。この大田区の地域特性、強み等について、齋藤委員からご説明お願いいたします。

○齋藤委員

それでは、私、企画経営部長の齋藤から資料説明いたします。資料の2-1をご覧ください。大田区の地域特性・強みということで、今更ではありますが、この会議体での認識の共有化ということで、改めて私の方から、簡単にお話をさせていただきます。

大田区は、日本の空の玄関口で羽田空港を擁するという強みがありまして「国際都市おおた」であるというようなこと。それから今日、諏訪委員、海老名委員もいらっしゃいますが、高度な技術力を持つ多くの町工場、それから賑わいのある商店街、多摩川などの自然、歴史や伝統文化等、多彩な魅力溢れるといったようなことで、実は用途地域と言いまして、住居系、商業系、工業系とですね、様々な用途地域、これ 13 種類全部あるんですけども、そのうち大田区には 12 種類あります。これは都内の自治体の中でも大変珍しい例

でございます、まさに東京の縮図といえるというふうに考えております。

それから、区の自治会・町会・事業者NPO団体等の団体との連携協働による「地域力」。要するに大田区政はこの地域力というのをキーワードにしておりまして、地域ぐるみで何かやるということで大変団結力がある、そういった地域というふうに考えております。

それから、次の資料 2-2 でございます。大田区におけるSDGs推進のための基本方針を昨年度策定させていただきました。参考資料の中で、参考資料3がありますけども、これが基本方針の中身になっておりまして、ここに主立ったものを記載しておりますが、資料 2-2 の方で、その抜粋を載せておりますので、こちらで簡単にさらしてみたいと思います。

取組の方向性としては、まず1番目として、SDGsに関する理解促進というのがございまして、あらゆる機会を通して、私ども職員それから区民の皆様方もそうですが、SDGsについて学んでいただきたいということの理解促進が1つあります。

それから2番目として、個別計画等におけるSDGsの推進ということで、区の中の各部局において計画はありますが、それにことごとくこのSDGsの17の目標、これを位置付けていただきたいということを今やっております。それで先ほど村木委員の方から、貼り付けるだけといったようなこともあって、私どもはその傾向が無きにしも非ずで、これはいけないだろうということで、ただ17の目標の1つ1つを各計画に紐づけるということだけではなくて、大田区としてこの取組を進めるために、まず何をやるべきだろうということを私ども考えた訳でございます。その中で、先ほど大田区の強み、地域性という話もありましたけども、大田区がどのようなまちかという、やはり町工場や中小企業が集積しているという大きな特徴がございます。そのような中で、SDGsの大きな1つの要素である「環境」、町工場やそういった事業者の方々との「経済」を結びつけるすなわち「環境」と「経済」の両立を目指すSDGs。これにまず的を絞り取り組んでいくということで、この会議体ができてきております。

それから3番目、区民事業者等へのSDGsの普及啓発ですが、これは1番の職員等との関係もあるんですけども、まず区民の方々に興味を持っていただく、知っていただくといったようなことが大事ですので、その取組をしていきたいと思っております。

それから、4番目として多様な主体との連携ですが、これは区だけでできる話ではございませんので、区民の皆様方や事業者、地域団体とかそれから

教育機関等ですね、多様な主体との連携をしていきたいと思っております。そういう方々の意見なども取り入れながら、実のある取組っていうのをやっていきたいと思っております。

それから、これと同時に大田区では、公民連携、つまり、民間の方々とも連携による基本方針というのを作っております、今年の1月に公民連携の基本方針を改定させていただきました。今まではどちらかというと、民間の方々には、社会貢献してくださいと、こういうことを申し上げておりました。ただ、社会貢献と一概に言っても民間企業に、採算性とか利益を度外視してボランティアでやってくださいという訳にもいきませんので、ビジネスを通じて、結果的にそれが社会課題の解決に結び付けば、それはそれでよろしいことなので、そういう観点からこういう連携を進めましょうということで、考え方を大きく転換しました。これは国連の考え方にも合致をしております、SDGsは国連によって考え方が整備されたものでございますが、その国連が、これからの社会課題の解決は、民間の力がないといけない、それがビジネスを通じてのものだということをはっきり明確にしております。

我々がこれから取り組んでいくことの中では、区役所がその旗振り役をやっておりますけども、真にやっていただくのは民間の皆様方ということで、そういう観点からも、このSDGsの取組を進めていきたいと考えている次第でございます。まず冒頭大変雑駁で恐縮でございましたけども、私からの説明は以上でございます。

○村木会長

ありがとうございました。聞きながら色々思うことがあったのですみません。時間をどうしたらいいかということ聞きながら思っていたところでした。続いて、持続可能な経済活動の実現に向けた取組について、山田委員から願います。

○山田委員

改めまして産業経済部長山田でございます。私からは今申し上げた会長からあった項目につきまして、具体の話になりますけれども資料3からご説明申し上げます。

まず、産業経済部では現在区内産業の将来像を示す産業振興構想の策定に向けた準備を行ってございます。この構想は令和6年度からのスケジュ

ールで今後作業を進めまして、区の基本計画と連動する形で策定を進めていく予定でございます。デジタル化、カーボンニュートラル、自律等をキーワードとして設定することを想定しておりまして、産業のまちとして持続可能な産業構造の集積・維持発展を目指して参りたいと考えてございます。

次に、支援の方向性について、ご説明申し上げます。産業のまちおおたの4000を超える町工場に対する支援として、現在考えている全体イメージがこちらでございます。世界規模で外部環境が激しく変化している中、本区の産業、また特にその中での製造業の変革が求められてございます。町工場の規模や機能に応じまして最適な支援策を講じ、全体の底上げを図ることが重要と考えてございます。さらに、従来型ものづくりに加えまして、新たにコンサルティングサービス領域の転換等を図っていくために、デジタル化の促進、羽田イノベーションシティでのイノベーション創出等、より利益率の高い新分野への移行を目指して参りたいと考えてございます。

次に、今後拡充・強化を考えている取組のご紹介でございます。まず、本区の産業の特徴でありますものづくり企業集積の維持拡大でございます。区内で創業する町工場や工場アパートを建設する事業者への助成等を通じまして、引き続き工場集積の維持・拡大を図って参りたいと考えてございます。

続いて、デジタル化の促進でございます。これまで開発を続けて参りましたデジタル受発注の仕組みを活用いたしまして、大田区特有の仲間回しのデジタル化に取り組んで参ります。また、産業振興協会が運用しているデジタルプラットフォーム「おおたデジタルPiO」を区内事業者の皆様などに広くご活用いただき、様々な情報の共有・発信をサポートして参りたいと考えてございます。

続いて、羽田イノベーションシティでございます。街区内に区が確保しております約4,000㎡の空間を「羽田PiO」と名付けまして、テナントゾーンと交流空間「PiOパーク」を整備・運用してございます。テナントゾーンは17の区画がございまして現在満室となっております。また、約1,000㎡ある交流空間「PiOパーク」では、新たなイノベーションを創出するきっかけとなる、様々な交流を目指す仕掛けを積極的に行っております。これらをはじめとした取組を一層加速しまして、区内産業の持続的な維持発展に引き続き取り組んで参りたいと考えてございます。

次に、産業経済部として外部組織との連携による取り組みに繋げていこうと考えている案件を2つ、ご紹介します。

まず1つ目が、5Gの環境促進についてでございます。現在、総務省が掲げるインフラシェアリングを実現していくための4社共用アンテナ開発実証実験が、産学連携で行われてございます。そこで本区といたしましては、産業集積の強みと、フィールドの提供などを通じまして、参画はできるのではないかと考えているところでございます。

2つ目が水素についてでございます。クリーンエネルギーとしての水素でございますが、隣接している川崎市では臨海部の工業地帯におきまして、水素活用の取組は既に行っておりまして、パイプライン等も整備されてございます。このたび川崎市の方から、大田区側の方へもパイプライン延長が可能というような話が来てございます。化石燃料の代替としての水素活用は区としても積極的に検討する価値があると考えてございます。さらにこれを契機とする空港臨海部の機能更新、スマートシティ化も視野に入れることができれば、区内産業の未来は一層大きく開けていくのではないかと考えてございます。

以上、産業経済部、限られた時間で雑駁でございますが以上発表させていただきます。ありがとうございました。

○村木会長

ありがとうございます。それでは続いて脱炭素社会循環型社会に向けた取組について、小泉委員からご説明をお願いします。

○小泉委員

私からは、挨拶で触れました今年3月に策定いたしました大田区環境アクションプランの概要の中で脱炭素と循環型社会の取組について、ご説明をさせていただきますと思います。

資料に入る前に、本プランは、区の施策を環境という視点から、整理・体系化するとともに区が策定する個別計画や事業等に対して環境の保全に関する基本的方向を示すものです。また、この計画を進める上で多くの区民等や事業者と連携し、持続可能で快適なまちの実現に向けて取り組むための指針となるものでございます。では資料に入らせていただきます。

第1章については、世界や国の動向を記載しておりますのでお目通しいただければと思います。

次に、第2章は計画の基本事項で、アクションプランの前計画である大田区環境基本計画後期の取組を踏まえて3つの見直しの視点を記載していま

す。その1つが、SDGsの推進の視点でSDGsのゴール、ターゲットと本計画で掲げる目標や取組の関係性を整理し、5つの基本目標の実現に向けた取組がSDGsのゴールにどのように貢献するかを示しています。このSDGsを区民の皆様により身近に感じてもらうために、基本目標ごとに大田区環境版ローカルSDGsとして掲載しております。この計画の期間については、令和6年度までの3年間としております。計画の位置付けは、環境の保全に関する施策を総合的かつ計画的に推進する最上位計画であると同時に、大田区基本構想等の上位計画の実現を環境面から支えるものです。また、関係法令に基づく3つの計画を包含しております。

第3章の将来の環境像と基本目標は大田区が目指す環境像として前計画から継承いたしました「環境と生活・産業の好循環を礎とした持続可能で快適なまち」の実現を目指すものとし、新たに大田区環境ビジョン2050を掲げ、2050年度までに、3つのゼロを通じて、持続可能な環境先進都市おおたの実現を目指すとしております。5つの基本目標では、特に複雑多岐にわたる環境課題の解決のためには、大田区を構成いたします様々な主体と協力体制を構築する必要があるため、SDGsに掲げられておりますパートナーシップの推進を分野横断的な目標と位置付けて「ともに行動する」ことで環境課題の解決を目指すこととしております。

第4章にそれぞれ5つの基本目標の取組を記載しておりますが、ここではBとEの脱炭素と循環型社会について触れさせていただきます。基本目標のBが気候変動緩和策の推進で区民等、事業者、区が連携を強化して、温室効果ガスの排出量削減に取り組むことで2050年度までに脱炭素社会の実現、2030年度までに2013年度比でマイナス46%の削減を目標に掲げております。今年度は脱炭素化推進に向けたロードマップとして(仮称)大田区脱炭素戦略を策定する予定です。基本目標Eは循環型社会の構築で資源の循環利用と、廃棄物の適正処理により循環型社会の構築を図り、発生抑制、再使用の2Rを優先し、なお排出される不要物は可能な限り、再生利用、リサイクルに向けた排出を促し、さらに再生可能な資源の利用、リニューアブルを通じて廃プラスチックや食品ロスの抑制に取り組んでいくこととしております。

最後の第5章については、大田区の気候変動適応方針で平成30年に施行されました気候変動適応法に基づく、地域気候変動適応計画と位置付けて掲載しています。私からは以上でございます。

○村木会長

ありがとうございました。それでは、今ご説明いただいたことにつきまして、皆様からご意見をいただきたいと思います。私は言いたいことが色々あるなと思ったところがございますけれども、区からいただいたご提案だと今日は1回目ですので、皆様思ったことをそれぞれご意見いただきたいと思います。最初は名簿順で申し訳ないのですが、お話いただきたいと思いますので、高木副会長からお願いします。

○高木副会長

ありがとうございます。高木でございます。いただいた計画を拝見して色々私も申し上げたいことがあります。まさに環境と経済との両立というところに観点を移しますと、SDGsは環境と経済に加えて、どうしても社会という側面を抜きにして語るというのはすごく難しいというか、色々な要素というのは、皆様ご存知の通り繋がっておりますので、もちろんメインはその立場でよろしいと思いますが、やはり社会の側面というものもきちんと見ていくことを申し上げたいと思います。

もう1つ、これは私が今申し上げていいのかわかりませんが、委員の構成にも関することで、今ぱっと見て女性の委員の数、これはジェンダー平等の観点から本当にこれでいいのだろうかとかですね。

あとは、時間軸のお話を皆様していただいておりますけれども、2030年をゴールにしている、こういった計画を作る、もしくは行動を考えていく上で、その未来を担う世代である、例えば10代20代の若者が特段この中にはいないということ、これについてもある程度考えていく必要があるのかなと思います。

計画の中身については、皆様から個別にコメントがあると思いますので、一旦ここで私のコメントを終わらせていただきます。

○村木会長

続いて、小林委員お願いします。

○小林委員

ありがとうございます。まずはご説明いただきありがとうございました。

1点共感させていただいた点としましては、SDGsを事業機会としてとらえ

るという点については非常に事業者の目線ということで、強く賛同するところ
です。というのは、社会課題の裏には、紐解いていけば個人の悩みに繋がっ
てくるというところがございますので、そういった観点で SDGs のために事業者
が存在するという訳ではなく、事業者がそういった社会環境の変化をどのよう
に利用していくかという心持ちが大事なのかなと思っています。そのような観
点で、SDGs についても網羅的に全部、こと事業者に関してですが、網羅的
にすべて自社で取り組むというよりかは、自社だからこそこできる事業領域とい
うところを大田区ならではの町工場であったりとか商店街であったりだからこ
そできるものというところに地域資源等々目を当てながら取り組んでいくこと
が非常に重要なかなというふうに思っております。

あと一方で高木副会長の方からお言葉がありましたけれども、社会の側面
というところが外せないのではないかというご意見いただいております。そうい
った中で私から1つ申し上げたいのは、防災の観点かなというふうに思ってい
ます。気候変動、環境の側面に非常に注力されているというところでそ
の点については、全世界共通のテーマだと私も理解してございますけれども、
基本的に 2100 年に 1.5 度～4 度なんていうような気温がどれぐらい上がるか
というボラティリティがある中で、仮に 4 度上がった場合にどうなるかっていうと
自然災害のリスクが非常に数十倍にもわたるといった中で特に町工場さんで
あったりとか、今回も事業課の皆様がいる中で恐縮ですけれども、強く供給
責任が問われる中で、こういった事業継続や BCP、BCM といったところが問
われるような世の中にもなってくるのかなというふうに思っております。

一方、適用というところで省エネなどももちろん大事ですけれども、そうなら
ないケース、気温が上昇し、自然災害が増えるケースといったところも社会の
側面というところで注目する必要があるのかなというふうに思っております。
私からはいったん以上とさせていただきます。

○村木会長

ありがとうございました。それでは野田委員お願いします。

○野田委員

野田でございます。ご説明ありがとうございました。

村木会長から忌憚ない意見をということでしたのでいただいたものですから、感じた
ことを率直に何点かお話しさせていただければと思います。今回その(2)の

タイトルとして「現状・課題」ということで記載がありますが、いただいた資料の中から課題というのは実は見えないなと思っております、SDGsの観点というのがいいところを伸ばすということもあるかとは思いますが、各地域に置かれている課題をどう解決していくか、それがレジリエンスなのかなというふうに考えています。

そういった点、区役所の皆様におかれましては、そういった日常の業務の中で問題意識を持ってらっしゃるのかなというふうに思っておりますので、その辺りについて幅広にご提示いただければ、この会議の場での議論も深まっていくのかなと思ったところでございます。

私自身が大田区民ではないので、大田区というイメージで先行してお話をさせていただく形になりますが、皆さんのお話があったとおり町工場のまちというところが大きいのかなと思っています。これは、非常に特徴の1つなのかなと。そして、そこから類推して大田区は大田区で仕事をして大田区に住んでいる人の割合が、他の 22 区と比べて多いのではないかと勝手に想像しています。そういったところが大田区の特徴の1つでもあるかなというところで、かつ、感じたところとしましては、課題の1つとして、当社の子会社様と色々なお話をさせていただいて、当社のメインターゲットは中小企業、零細企業になりますので、今、事業承継の問題は非常に大きな課題となっております。それは、弊社にとってのビジネスチャンスであったり、事業上の課題にはなっていますけれども、そういった観点がいただいた資料のこの大田区製造業の支援の方向性といったところの中に特に記載がなかったものですから、個社別で長く業歴があるところであればあるほど、ご高齢の社長さんとかというケースが起り得る、それがちゃんと世代交代できる会社さんであればよろしいのですが、その辺りが今後のデジタル化なども含めて対応できるのかというのは、非常に大きな課題になると思いますので、その辺りで大田区さんらしさのSDGsというのを持つ意味においては、あってもいい観点ではないかなと感じたところです。

また、後程発言の場面があるかもしれませんが、2030 年まで 46%、2050 年までに脱炭素というこのターゲットのベンチマークの 2013 年度の炭素排出量というのを把握されているのかどうかはすごく心配になりました。弊社でも、自社の部分については何とかできますけれども、銀行としてお取引の皆様の炭素排出量の把握というのが求められておりますが、それが非常に大きな課題となっております。ですので、この辺りも、先ほどの数値にこだわるというところ

もあるかなと思いますが、この辺りをどのように把握していくかというのも大きな課題として認識する必要があるのかなと思っています。以上でございます。

○村木会長

ありがとうございます。それでは磯委員お願いします。

○磯委員

磯でございます。私は、大田区では 50 年仕事をやっておりますので大体の事は分かっているつもりであります。大田区に町工場は 2 万 5000 社とか 3 万社あって、おそらく製造業は 2000 社ぐらいではないですか。実質の数字、野村総研が出した数字は 3000 を切っているという話もしています。

相対的に大田区町工場、ものづくりばかりではないというところで、僕の立場としては情報サービスですから、AIとかITとか、そういうのを融合させたものづくりだったらいいと思いますが、仲間回しとかそういうのは、もう時代が違うのではないのかというのが現実です。

それともう1つ、中小企業の立場から言いますと、経営効率を上げないといけないんですね。経営効率を上げるということが、当然のごとく、省エネにもなります。それでは何かというと 1 点あるんですね。大田区の中小企業経営者は勉強しないです。こういう議論するのもここに出てくるメンバーだけです。ほとんどできません。なぜか。勉強しなくても努力しなくても飯が食えるからです。これはやはり問題です。ですから、区の方からもっと啓蒙していただいて、大田区の中小企業者がもっともっと一生懸命にこういう問題を勉強して提案が出せる、逆に言うと、そちら側と同じ土俵で同じ目の水準で議論できる人たちを育てていかないと大田区の中小企業は残りません。ですから、中小企業の経営レベルというのを非常に上げていかなければいけないというのが議論でして、これを皆さん、議論をいつも外しているんですね。ですから、村木委員、何でもおっしゃるっていうのは、その辺のサジェッションがないと難しいです。

それからもう1点、野田委員からありましたが、事業承継というのは2つの問題がありまして、ただ後継者がいないからとか、そればかりではありません。問題は自社株です。問題は、中小企業が上場しないことです。そうすると、大田区のサステナビリティ、企業の年数が非常に長い企業が日本でも相当誇れるところもありますが、企業の歴史がすごく長い会社、うち 50 年でもまだ新

米って見られます。そうすると非常に内部留保が高まりまして、自社株はものすごく上がります。これで事業承継ができないのです。これは商工会議所に盛んに私は言っていますが、事業承継っていう点では片方しかもう言われていけませんので、1つのその自社株対策、上場できませんからもらっても嬉しくありません。もらった方は贈与税をたくさん払わなくてはいけないという複雑な問題がありまして、中小企業の親父の立場として色々なことを今後言わせていただきますので、これ以上言うと愚痴になりますので、やはり中小企業の親父は勉強しなければいけません。経営者が勉強しない限りサステナビリティはありません。以上です。

○村木会長

どうもありがとうございます。それでは高橋委員お願いします。

○高橋委員

私は野田さんと同じように大田区民ではないので、なかなか事情もわからないところもありますし、私の前に磯さんが大田区のことを非常に深く話していただきましたが、大田区と言えば町工場という印象が非常に強いところがございます。今、カーボンニュートラルという観点で考えていくと、どちらかというと大企業で色々と進めていますけれども、そのような中、サプライチェーン全体でカーボンニュートラルに取り組まなければいけないというところが、スコープ3のところ、非常に注目されているところかなと思ってございます。そうすると町工場とかそのようなところとサプライヤーになるところかなというふうに思いますので、その対策をどのようにしていくのかだと思っています。

企業として取引できなくなればやらなければいけないというところが当然あると思いますが、やれる限界というのも当然あると思いますし、そういったものを先ほど諸々皆さん時間軸で考えなければいけないという話がある中で、そのようなものを無理なくできるような形での時間軸というのはどのような形なのかとか、その時間軸の中で、2050年ゼロにするといった流れの中での途中途中で、例えば行政からの助成とかそういったものをどのように宛がえるのかとか、そのようなことで無理なくやっていける仕掛け仕組みが必要だと思っています。そして、そういう取組をすると実はバラ色になるというような絵姿が、このいただいた資料の中からだと、やらなければいけないからやりましょうという印象、率先して前向きにやっていきたいと思わせる絵姿みたいなのが必要にな

ってくるのかなと思っています。

先ほど高木委員からも次世代の子どもたちの世代といったところにどういうふうに見えるかといった話があったと思いますが、おそらくこの資料、難しい資料なのでわからないというかもしれないですけど、議論してこのような形でどうですかというときに、子どもたちがわからないという形にするのはよくないと思うので、途中、子どもたちの意見を聞くような場があってもいいのかなとか、そういうことを考えていただけると、より実効的な計画になるのかなと思っています。以上でございます。

○村木会長

ありがとうございます。それでは諏訪委員お願いします。

○諏訪委員

ありがとうございます。言うことはたくさんありますが、今日何を話しているのかよくわからなかったなので、この資料に沿って、磯委員も言われたとおり本当に町工場の経営者の勉強不足っていうのを本当に痛感しております。自己啓発や教育をしっかりしていかないと、今後イノベーションを起こしていかないと、仲間回しの時代はもう終わって、1つ1つの企業が成長していかなければ、持続可能性には繋がりません。そうするためには、この資料にあります新分野への移行が非常に重要でございまして、今までシュンペーターの理論でいきますと、既存技術、これにプラスアルファの要素を加えても、新規産業の企業には勝てないと言われていましたが、シュンペーターの理論によると、旧技術プラスアルファで、逆にそこを伸ばす、伸ばせる可能性が高いという実証結果が出ています。ですので、今の既存企業の技術プラスアルファをどうやって成長させていくか、その支援をどうしていくのかというのを大田区で考えていかなければいけないのかなと。スタートアップと創業支援、プラスアルファ既存企業、プラスアルファのイノベーションを起こすための施策作りが必要ではないかなというふうに考えております。

あと、将来を考えたときに、子どもたちの教育というところもあったと思いますが、雇用にすぐ直接には繋がらないですけども、起業家教育だとか、育成、アントレプレナーシップ、その醸成が重要ではないかと。そのためには、小さい頃からの教育が必要であり、また、この男女の先ほど言われたものも、文理の融合教育が小さいときから必要ではないかなと。そういったものをいち早

く大田区で進めることによって、色々なところの外部環境、世界情勢もそうですけれども、外部環境の変化が激しくて、業態変化をすぐに迫られる企業が非常に多くなっていると思います。ですので、そういった観点からも、経営者が知識を広め、どういうところにチャレンジができるのか、どういうところに成長性を見出せるのかっていうのを知る必要があります。

SDGsに関して言いますと、多くの中小企業・小規模企業、勉強不足で申し訳ないですが、今できることと云ったら、中小企業が、まず何をできるのかということを示していただくことが一番重要かと思えます。将来に向けて、各企業が成長に向けて何をしなければいけないのかという目標を立てることが、一番重要だというふうに、持続可能性に繋がっていくというふうに私は考えています。以上です。

○村木会長

ありがとうございます。海老名委員お願いします。

○海老名委員

今回、前菅政権が掲げていたデジタル化とグリーン化のうちのグリーン化の方ですけれども、今年、私どもはデジタル化とグリーン化に取り組もうとやっておりますが、ローカル 5G にも取り組もうということで、昨年、東京都の助成金に採択され、今チャレンジしているところですが、実際そのローカル 5G をやるのも色々な問題があり、本当に工場の中で使えるのかというところから、現状、課題にぶつかっているところです。

グリーン化の方でいうと、ここに 2050 年の脱炭素化社会の実現ということで、政治家はよくこんなことを約束してきてしまったというのが正直なところでして、もうそのときは政治家をやっていない訳ですからね。いい加減なことを世界に約束してきて、先ほど野田さんがおっしゃったとおり、現状では我々がどれぐらい排出しているのかも、排出量がわからないというのと、それをどういうふうにやったらいいのかというのがなかなか見えてこないというところがまずあって、世界が危機的な状況であるというのは、ビル・ゲイツの今年の著書の数値で示していただくと、これは何かしないといけないと個人的に思いますが、それを他人事から自分事に変えるための施策をどのように大田区の中で作るかが大事になるのではないかと思います。

先ほど諏訪さんもおっしゃっていましたが、我々も今、羽田イノベーション

シティに入って、違う形のオープンイノベーションを目指そうということをやっていますけれども、ただやはり社歴は長くて、同じような人たちと一緒にということではなかなか新しいことが生まれないので、ここにも色々な方がいて、多様性をより受け入れていくような区を目指すということが、今後大事なのかなと思います。今、大田区の方でも ONE X という副業の大手の方が、副業している方も入ってきていらっしゃるんですけども、もっとさらにそのような他がやってないような形で、前例がないような形の取組を大田区で進めるような形で変えていくことが必要かなと思います。

土地の値段も、2008年にリーマンショックがあり、今回コロナショックがあつて12年ぶりに土地を購入できましたが、大体1.5倍から2倍まで大田区では上がってしまっていて、これから人口が増えるとなるとCO2を排出しますよね。これをどうやって削減する方向に大田区として持っていくのかというのは、我々としても考えていくことが必要かなと思います。以上です。

○村木会長

どうもありがとうございました。皆さんかなり率直なことを言ってくださったと思いますが、これに対して、区の委員の方3人いらっしゃいますが、何かここで発言はありますか。では齋藤委員お願いします。

○齋藤委員

企画経営部長の齋藤です。忌憚のないご意見本当にありがとうございました。すべてのご意見にというのは難しいのですが、ポイントだけお話をさせていただきますと、まず高木先生の方から、SDGsは、環境・経済・社会という三側面があるということは、先生のご著書でも私も熟読しておりますので、大変承知をしております。ただ社会の側面というのは色々なところと関係します。この中の環境と経済の中に要素として入ってこないということではなくて、あらゆる場面で、これは関連すると思っております。その中で例えばDXの話であるとかグリーンの話であるとか、そういう社会変化というものが非常に関係してきますので、そういう要素を取り込みながら、この会議体の成果にしていきたいと考えております。

それから小林委員が言われた、防災の側面というのは非常に大事だと思っております。特に気候変動等、そういう大災害が起こるような時代ですので、それをどう回避するのかという中では非常に大事です。そのような中で、私ど

も防災を単なる目の前の台風とか地震とかそれを防ぐということだけではなくて、国土強靱化、国土全体の強靱化ということを考えて計画作りを今やっております。その中でそれを実践的にするためには、まさに絵に描いた餅では仕方がないので、地域の実情を踏まえて、こういうリスクが起こった場合にはこういう行動をとるんだということも含めて、これからもっと具体的なものを作っていきたいというふうに考えてございます。

それから、野田委員の方からは、なかなか課題が見えないといったようなご指摘をいただきました。それでこの資料の中で後程ご説明しようと思っておりましたが、資料6のところ、年間スケジュールというのがございまして、今日は第1回ですけれども、第2回で優先的に目指すべきゴールターゲットの検討や重点施策の検討をやる予定でございまして、この過程の中で、課題を洗い出して、それに対してどうするのかというところを事務局として提示させていただきながら、皆様のご意見をいただきたいというふうに考えてございます。

それから、磯委員の方からは、町工場ということだけではなくて情報サービスと融合させては、というのはおっしゃるとおりでございまして、このAIやITの要素も非常に大きいので、取り込んでいきたいと思っておりますし、それから経営効率について、町工場・中小企業の方が勉強しないとか、あと高橋委員からもサプライヤーとしての対策、無理なくやっていける仕掛け作りといったようなお話もございました。

それでご案内のとおりこのSDGsというのは、Sustainable Development Goalsということで、直訳すると「持続可能な開発目標」ということで、決して規制するという意味ではなく、開発をいかにしていくかということが主幹の目標でございます。したがって、事業者の方々の中からもすごく優れて先進的に取り組まれているところもあれば、なかなか残念ながらついてこれないというところもございます。その意味で、このSDGs自体のスローガンが誰一人取り残さないでございます。したがって、そういう方たちにも行政の支援の手が差し伸べられるように、施策を打っていききたいというふうに考えてございます。

それから、諏訪委員の方からはイノベーションを起こす持続可能性であるとか、既存技術を成長させる施策作りといったこともございました。まさにおっしゃるとおりでございまして、私どもあらゆる機会をとらえてそうやっていきたいと思っておりますし、また、例えばコロナ禍で、非常に事業者さんが苦しい中で、私ども例えば中小企業融資などしていますが、これも中で議論しております。

すが、せつかく融資するのであれば、政策誘導の融資ができないか。例えば環境とか、SDGsに配慮するようなどころにはこういう融資を拡大しますとか。そういったところも含めて今後検討できればと思っております。

それから海老名委員が言われたデジタル、グリーン、ローカル 5G、これのキーワードっていうことがあって、これは国が作ったキーワードではありますけれども、ある意味時代をとらえているので、そこに我々がどうやって魂を入れるか、つまり地に足がついたものにするというのは、我々地域性を抱える基礎的自治体でないとできないと思っております。したがって、これからやっていきたいですし、他人事から自分事という啓発、これも私どもの役割だと思っておりますので、しっかりと取り組んでいきたいと考えております。

○村木会長

短めにお願ひします。

○山田委員

企画の齋藤が色々とお話しましたが、各委員の方々から忌憚のないご意見をいただいてなんてお答えしようかなとお聞きして思っていました。中小企業の力というのを大田区でどう示していくかというのは、大田区のSDGsもそうですけれども、全国に向けて何か発信しなければいけないと思っています。

大田区は、ご案内の方もいると思いますけれども、何千という企業がある中で、そのうちのものづくりに言えば9割以上が4人以下の本当に小さな企業です。1人のところもあれば、そうじゃない、2人3人もありますけど本当に少ない。こういった企業にデジタル化とかどういうふうにするって言うのも難しい部分もあると思います。でいけば、すべてデジタルの方で救うというよりは、ちゃんとそれぞれの経営資源、企業体力に見合ったメニューをちゃんと用意していかないと、一律でのSDGsの施策は無理だと思っています。そういった中で、様々な仕掛けの1つとして今デジタルとかを産業ではやってはいるんですけれども、デジタル化がイコール持続可能ではなくて、あくまで手段の1つであって、私はアナログも使っていると思います。持続可能な社会に向け、まさに、産業のまちならではの他じゃなかなか追いついていけないようなところまでしっかりと対応しながら中小企業を高めていきたいと思っています。

1つご案内さしあげますと、1つの方策として国とか地方と繋がるのは、や

はり大きな持続可能性になると思っています。これ関係人口の方に話にもなると思うんですけども、例えばこの間、羽田イノベーションシティにおいて全国と繋がるようなイベントを幾つもやっています。そういった中での課題ですけども、地方としてみればそれがニーズであったりとか、またその逆。大田区の企業が出張って行って地方と連携する。またその逆もありだと思います。そういったことを、相互連携をしていくのが私は産業面から見たSDGs、今回しっかりと取り組んでいきたいと委員の皆様のご意見を頂戴して思ったところでございます。

○村木会長

ありがとうございました。

○小泉委員

CO2 排出量の把握に関しまして、先ほど触れました(仮称)大田区脱炭素戦略を今年度策定する中で気候変動の影響分析や区内の温室効果ガスの詳細分析等を調査し、アクションプランの脱炭素社会の目標を実効性のあるものにしていきたいと思っています。以上です。

○村木会長

ありがとうございました。かなり皆さん、明確にご意見いただいて、一言だけ申し上げておくと、この後、この政策・計画を作る際に、耳障りのいい政策・計画は作っても無駄ではないかなというのを、皆さんのご意見を聞きながら思ったところであり、誰1人残さないということにもものすごく注力していこうとすると、それをどうやって実現化するか。ただ同じようにやっても仕方がなくて、かつ、話が変わりますが、かつて健康寿命を延ばすためにスタンプラリーをやるのは無駄だということを筑波大学の偉い先生に言われたことがあります。それはどうしてかというと、健康に関心がある人はスタンプラリーなんかしなくても、みんな歩く。つまり、健康をよくするためにどうすればいいのかということ、どのように提供するかということです。それはSDGsの話も同じで、先ほどから言われていた中小企業の人たちが参画したくなるっていうのは勉強したくないのではなくて、勉強したくなるような状況にするにはどうするのかを考えないと、誰も残さないってことにはならない。そこをうまく計画作りの中で、アイデアが出てくるといいなと思いました。

それでは、議題の3の 2030 年に目指すべき姿について、事務局から大田区の基本構想・みらい事業についてお願いしたいと思います。

○野村企画調整担当課長

はい。それでは、2030 年に目指すべき姿を検討していただくにあたって、大田区が示している2028年の目指すべき姿及び2040年の目指すべき姿について、事務局より説明させていただきます。

まずはお手元の資料 5-1 をご覧ください。こちらは大田区が 2008 年に策定しました、大田区基本構想で示している 20 年後の目指すべき姿です。将来像として、「地域力が区民の暮らしを支え、未来へ躍動する国際都市おおた」を掲げており、基本目標として、「生涯を健やかに安心して生き生きと暮らせるまち」、「まちの魅力と産業が世界に向けて輝くまち」、「地域力と行政の連携がつくる人と地球にやさしいまち」の3つを掲げております。

続いて資料 5-2 をご覧ください。こちらは今年度の4月に更新しました新おた重点プログラムで、中長期的な視点に基づく、みらい事業のビジョンとして示している 2040 年の目指すべき姿です。緑の枠で囲っております 6 分野について、それぞれこういったまちといった形でビジョンを示しております。今回は少し時間がないのですべて復唱することは省略させていただきますが、こちらが今回掲げたそれぞれのまちで、それぞれの分野ごとに2つ挙げておりますので、計 12 のまちが挙げられております。

続きまして、次の資料 5-3 では、今し方説明しました、大田区基本構想及びみらい事業の目指すべき姿より環境・経済の面に特に関わりが深い項目を抜粋しております。また、みらい事業では未来の方向性という形で、今後取り組むべき方向性についても、あわせて記載しておりますので、そちらについても、資料下段の方の未来の方向性という部分で示しております。

委員の皆様におかれましては、これらの大田区の目指すべき姿等意識していただきながら、改めて、2030 年に目指すべき姿についてご意見をいただけますと幸いです。事務局からの説明は以上です。

○村木会長

ありがとうございます。これは何かご意見ある方は挙手をいただきたいと思いますがいかがでしょうか。それでは、どなたかのご意見が出る前に私が思ったことを1つ申し上げると、今いただいた資料だと、どうやって数字を取って

いいかがわからないなと思うことがたくさんあり、評価をする際にアンケート調査しかやりようがないなと思いました。みんなで育むとかその育んでいるというのは人によってすごく違いますよね。こういったものがアンケート調査でどう思いますかっていう定性的なものではなくて数字で取れるものを数字で取っていく、そのような KPI の設定をしていくことが私は大事ではないのかなと思います。他に何かお気づきの点や言いたいことがあったらお伺いしたいと思いますがいかがでしょうか。

○小林委員

あくまで、企業様にビジョンを作るときに観点で申し上げますけれども、重要な観点として3つあると思っていて、やりたいと思えるもの、やるべきと思えるもの、あとはできると思うもの。これが打ち上げ花火的にもならないですし、ステークホルダーからの要求・要請も踏まえられているし、実際自分自身が行動に移せるものだと思っております。何を申し上げたいかというところ、このビジョンを示されてもという言い過ぎかもしれませんが、背景であってどういう背景の中でどういう姿を描くかというところのストーリーが見えてこない。その背景や目的のところ、大田区さんですと、非常に多く関係者だったりとか立場の異なる方も多いということであれば、目的の共有は非常に重要です。それをなくして数字は立てられないのかなというふうに思っています。ですので、まず目的を1つにして、それを分解していった結果、資料番号 5-2 である6つのテーマというところが分かれてきて、それを図るべくしてどのような指標が望ましいかというような形になってくると思うので、そのような観点が必要かなというのが初見で思ったところです。

○村木会長

ありがとうございます。多段階分類するとか、そういうことが必要になってくるということだと思います。他にいかがでしょうか。

○諏訪委員

目指すべき姿というところでビジョンを示すというのは非常に重要ですがけれども、これは経営に関することですが、大田区を企業として考えると、目的と方向性を示してモチベーションを上げさせる。我々の区のモチベーションもそうですけれども、我々民のモチベーションを上げるようなものを作ってい

かないと幾らビジョンを掲げてもやる気を起こさせなければ委員長が言われたとおり、これは進んでいかないと思いますので、目的と方向性を示してモチベーションを上げる仕組みを作っていかなければいけないのでは。これを実現させるためには、そういうことが必要ではないかなと思いました。

違う資料になりますが、メールでいただいた資料の中に、2030年のあるべき姿という資料があったと思います。今日の資料にはなかったですけども、働きがい、生きがいを暮らしにつなげるデザインという命題がありまして、私はここに違和感がありました。働きがいとか生きがいは、個人の価値観によって全然違いますので、そうではなくて働きやすい企業を目指すだとか、有意義な生き方、暮らしができる、そのような考え方に持っていかないと、働きがいだとか、生きがいというのは押し付けでしかないので、ここは少し考え方を変えていかないといけなかなというふうに考えています。今日の資料にはありませんでしたが、ここは言おうと思っていたので、追加でお話させていただきました。

○村木会長
事務局どうぞ。

○野村企画調整担当課長
資料の件が出ましたが、おそらく添付させていただいた資料は、SDGs未来都市にあたって、その他でこんなものが選ばれていますという例示を示したものですので、補足させていただきます。

○村木会長
齋藤委員どうぞ。

○齋藤委員
ご意見ありがとうございました。それで、1つこの資料の中の例えば資料 5-2 に 6 つの分野があります。それで役所が計画作りをすると、往々にしてこの分野別になってしまうんですね。
例えば、この産業のところで稼ぐ力を創出していうところが一番上にあります。それで、環境のところを見ると脱炭素型の行動変容が進み脱炭素社会が実現した、と書いてあります。これは一見相反するように思われますが、そうで

はなくて、SDGsや環境に配慮することによって稼ぐ力が創出したり増したりという関係性が当然出てくる訳ですので、この分野横断的な、そういった計画作りというのがある程度SDGsに必要なってきますので、普通の計画にはない、そういう建付けにしていきたいと思っていますので、そこは補足をさせていただきます。

○村木会長

ありがとうございます。分野横断的な政策作りもいいですが、それが結局区の中に下りていったときに、部門別になっているからそこがうまく機能するように、もう1つ仕掛けをそのあとに考えないと、綺麗な絵に描いた何かになりそうな気がします。他にご意見いかがでしょうか。

○磯委員

一般論でいいですか。要は、これをやったら儲かるというダイレクトな目標が必要だと思います。そうでなければ経営者は付いてこないと思います。そのような時間はもったいないということです。

福祉でも産業でも観光でもいいですが、大田区にそういう取組をしている企業はたくさんあります。この目標で何が儲かるかなど、何を儲けるために自分らは参画するのだろうと。企業である以上やはり利益ですから、その辺りの議論を深めていただきたいと思います。何をやると企業が儲かるか、それに対して環境も両立できるとなおいしいというようにやらないと、中小企業は付いてこないのではないかと思います。

今、総務省がスマイルカーブを出していますが、スマイルカーブというのは、今どちらかと言うと、上流から流れて下流の方の下請けの構造で、最後に一番サービスをやって一生懸命やっているところの利益率が一番低いという日本型のこの産業は崩れています。アメリカ型のスマイルカーブで、最後に販売とメンテをやるが一番儲かりますという、そういう全体の構造変換というのをやらないと、ただ今までのように上流のお金を出すところがあって、下請けの利益が一番低くて一番損をするという日本型の構造をいじらないといけないのだろうと思いますけども、その辺りはそういう意味で、最終目標のところが一番儲ける、社会構造のそこのところで一番儲けさせるような構造を作っていくと日本型のこの産業はおかしくなると思います。以上です。

○村木会長

この辺りはとても行政側は苦手なお話だと思いますが、アメをどうやって見せるのか、規制をやらないのであれば、市民が理解できるアメの提示の仕方。これがとても大事になってくると思います。そして、網羅的にやるのか、それともどこかに突っ込んでやるのか、これも決めていく必要性があると思います。他にいかがでしょうか。

○小林委員

ありがとうございます。磯委員は重々承知の上だと思いますが、その稼ぐ力といったときに、語弊を生みたくないのはあくまで長期の目線で稼ぐ力というところが非常に大事かなと思っています。というのは、いわゆるサステナビリティの活動は一見短期的にはコストにも見えかねないというところがあります。その中で長期に見たとき、例えばですが、人材投資も一見はPLだけですと、コストにも見えると。ただ一方、長期で考えるとそれは財務に跳ねてくるというようなところで、あくまでもその稼ぐ力、儲けの種といったところが長期にあるといったところが、いわゆる非財務資本などと言ったりしますが、そのようなところを見るのが1つ大事かなと思っています。

そのような中で、金融機関や自治体の役割として長期のところを支えることが大事かなと思っています。そういう意味で、いわゆるエンゲージメントなんていう言葉も使ったりしますが、例えば直近3年の財務諸表だけではなく、ある種の目的であったりとかそういったところをどこに向かって目的を共有した上での企業さんの評価であったりとか、要は長期的にコミットして向き合う必要が自治体、金融機関、事業者それぞれに必要なのかなというふうに思っています。環境省のESG金融などと言われていることは、そのようなところかなというふうに思っています。

○村木会長

ありがとうございます。長期的な視点で考えると、今度は中小企業への町工場への対応というのをどういうふうに支えていくのかということとすごく影響してくるのかなと思いました。

他にご意見いかがでしょうか。そうすると大体ご意見をいただいたようなので、区の方からは特に何かコメント返すようなことありますでしょうか。

○山田委員

まさに今この議論が肝だなというふうに私は感じました。中小企業の方々ってやっぱり、我々こういった場ではやっぱり長期の視点というのは、これも本当よくわかります。一方で、なかなかやっぱり中小の方っていうと、まず、実際でもすぐどうなのよという話にもなります。そういった中でいくと、冒頭で会長から「アイコンだけ付けただけの計画ってどうなの」という話があったときに、まさに、使える計画を作らなければいけないときに非常にやりがいを感じたと同時にですね、どうやって作っていくのかなというのはちょっと正直思っているんですけども、中小企業の方々にいかにこう取り組んでいただけるような計画するかっていうのは、今日のこの最初の議論で私はしっかりと受けとめさせていただきましたので、産業部門としてはそこをしっかりとやらせていただきたいと思います。次回以降色々ご提示をさせていただきたいと思いますので、またご意見を頂戴したいと思います。ありがとうございます。

○村木会長

ありがとうございます。大体今日はこのような形で終わるのかなと思います。が、今いただいたご意見等を伺っていても、大田区の特性を考えて、それに特化したSDGsというものもあってもいいのかもしれないですね。

色々なところのSDGsの計画を見ていると、比較的網羅的におやりになっているもの多くて、そうではなくてもっと突っ込んだもの、何かがあってそれで使えるような計画作りということを考えていってもいいのかもしれないなと思いました。この辺りは、また今後皆さんと一緒にご議論しながら、計画を作っていけるといいのかなと思います。それでは議事は以上となりますので、マイクを事務局にお返しいたします。

○野村企画調整担当課長

村木会長ありがとうございました。また、委員の皆様も、様々な意見を述べていただき、ありがとうございました。最後に事務局より資料の6番、今後のスケジュールについて説明させていただきます。

資料に記載のある通り、今年度は計4回の会議を予定しております。例年2月ごろに、国の方のSDGs未来都市の提案受付があるため、それを踏まえたスケジュール内容としておりますが、検討状況等に応じて、議題等が変更となる可能性がございますので、ご承知おきください。なお、次回の会議につ

きましては、現在8月の下旬頃で調整をさせていただいておりますので、日程が固まりましたら、改めて委員の皆様にご連絡をさせていただきます。

また、最後に事務連絡ですが、庁舎を出る際は、夜間通用口を利用させていただく必要があります。1階に案内のための職員がおりますので、職員の誘導に従ってご退庁いただきますよう、よろしくお願いいたします。以上をもちまして、令和4年度第1回大田区SDGs推進会議を終了とさせていただきます。委員の皆様、ありがとうございました。